

第3学年英語科学習指導案

1 単元名 Unit 4 An American *Rakugo-ka* (NEW HORIZON English Course 3)

2 単元について

教材観

本単元は、日本文化の一事例として落語が英語で紹介されており、前半は落語での扇子の使い方、慎とエレンが落語へ行くことを決める会話、そして後半は実際の英語落語の小話が紹介されている。この小話では日米の文化の違い、特によくある言語表現の間違いをテーマにしており、英語と日本語の意味を1対1で対応させることで問題点に気付かせることができる。また、日本や他国の文化を理解することで、お互いの文化を尊重する意識や態度を育てることができる教材である。

生徒観

本学級は1クラスを等質で2つに分けた少人数学級である。15人という少ない人数なのでペアでのコミュニケーション活動や、グループ活動にすぐに取り掛かることができ、生徒も楽しく活動する様子が見られる。7月に行った英語に関する意識調査では、「よく分かる」、「だいたい分かる」と答えた生徒が46%と半分に満たず、英語を苦手とし自信の持てない生徒や落ち着いて学習する態度が身に付いていない生徒などがいる状況から、授業始めにビンゴを使った活動で集中力や学習意欲を高める工夫をしている。またアンケートの中で、「4技能の活動について好きか」と尋ねた結果、「聞くこと・話すこと」、「読むこと」に対しては30%程度が「好き」と答えたが、「書くこと」に対しては一層低い21%が「好き」と答えたにとどまった。書く力が全体的に低いため、新文型を導入するときにもまず文字をなぞらせている現状もある。

よって今年度は書く力を着実に付けることを目標とし、1学期後半からライティングノートを使って書く活動を授業に取り入れ、その効果を期待している段階である。

指導観

本単元では「疑問詞 + to 不定詞」、「It is + 形容詞 + for... + to 不定詞」の文型が扱われる。日本人が理解するには構造的に難しい文型ではあるが、実際の会話で物事を説明する際によく使われる文型である。「書くこと」に関する指導は、ライティングノートを用いて文型のパターンプラクティスを充実させることで基本文に習熟させることを第一段階として、更に「英作文のコツ」を活用しながらその基本文にもう1文加えさせて表現の域を広げていくことを目標としている。

ライティングノートの添削も「英作文のコツ」の視点からこまめに行っていき、表現する力を高めていきたい。また、それらの英作文を全体の場で発表させることで、書く力だけでなく、読む・聞く力、そして基本文を用いて相手と会話する話す力などの4技能の力も伸ばしていきたい。そして、再度書く活動を取り入れてより内容にまとまりのある英文を書ける機会を増やしたい。これらの表現活動を通じて、それぞれの考えや気持ちを伝えあえる喜びを味わわせたい。

3 単元の目標

- (1) 間違いを恐れず、英語で積極的に自分の考えなどを書いている。
- (2) 疑問詞 + to 不定詞、It is + 形容詞 + for... + to 不定詞の文の形・意味・用法を理解し、それらを使って表現できる。
- (3) 教科書本文の内容から落語を主題にした話についての概要を読み取ることができる。
- (4) 落語を通して日米の文化の違いやコミュニケーションの取り方の違いについて理解している。

4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1 間違いを恐れずに、自ら学んだ表現などを書いている。
イ 表現の能力	1 to 不定詞を用いて、自分の考えなどを正しく話したり書いたりすることができる。
ウ 理解の能力	1 落語を主題にした話や日米の文化の違いに関する小話を聞いたり読んだりして、教科書本文の内容を理解することができる。
エ 言語や文化についての知識・理解	1 to 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 2 日米の文化の違いやコミュニケーションの取り方の違いを理解している。

5 単元の指導計画（全6時間）

	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
1	「疑問詞 + to 不定詞」の文構造や意味・用法を理解し、英文を書く。 落語での扇子の使い方を知り、落語について関心をもつ。	・ 「英作文のコツ」を参考に多くの疑問詞を使うように指示する。	ア - 1, イ - 1, エ - 1 【ライティングノート, ワークシート】 ウ - 1, エ - 2【訳シート】
2	「It is + 形容詞 + for ... + to 不定詞」の文構造や意味・用法を理解する。 慎がエレンを落語へ誘う会話を読み取る。	・ パターンプラクティスを多く行い、英文の構造と意味に慣れさせる。 ・ 「英作文のコツ」を使って、ライティングノートに「基本文 + 1文」を書かせる。添削も済ませておく。	ア - 1, イ - 1, エ - 1 【ライティングノート, ワークシート】 ウ - 1【訳シート】
3 本時	It is + 形容詞 + for ... + to 不定詞」の文を使って表現する。	・ 前時に書かせたライティングノートを用い、グループで協力させながら英作文に取り組みさせる。	イ - 1, エ - 1 【ワークシート】 ア - 1, イ - 1 【ライティングノート, ワークシート, 掲示用紙】 ウ - 2【観察】
4	英語で語られる小話について、レストランで注文するときの日米の文化の違いを知る。	・ 日本とアメリカの文化の違いについて理解を深め、尊重する意識と態度をもたせる。	ウ - 1【訳シート】 エ - 2【訳シート】
5	英語で語られる小話を読んで、「すみません。」と“I m sorry.”の違いを理解する。	・ 言葉のもつ意味と使われる背景を的確に理解させる。	ウ - 1【訳シート】 エ - 2【訳シート】

6	<p>新出語句の確認テストと基本文型の復習をする。</p> <p>ListeningPlus4 で落語家ビル・クラウリーについての知識を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新文型や新出単語が理解できているか確認させる。 ・ 少しでも多く情報を聞き取るためにメモを取らせる。 	<p>エ - 1【単語テスト】【ワークブック】</p> <p>ウ - 1【リスニングシート】</p>
---	--	---	--

6 本時の目標

- (1) 友だちの考えを基に，自分の考えをまとめようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 「It is+形容詞+for...+to不定詞」を使って自由に表現できる。(表現)

7 本時の展開 (3 / 6)

	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
導 入	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつをする。 2 ゲームをする。 3 前時の復習としてワークシートに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話す雰囲気を作る。 ・ リズム良くビンゴを進めて学習への集中力と意欲を高める。 ・ ペアワークでは，英語で意思を伝え合うことを確認する。円滑に進まないペアの支援をする。 	<p>ア - 1【ビンゴシート】</p> <p>イ - 1【ワークシート】</p>
展 開	<ol style="list-style-type: none"> 4 前時に与えられたテーマ「どちらに住む方が良い? - 東京か肥前 - 」について考えたことを作為的に分けられた東京派・肥前派のそれぞれのグループで協力しながら英文にして書く。 5 東京派・肥前派に分かれた2つのグループで個々人が書いた英文をグループごとに発表する。 6 相手グループの発表を聞いた後，再度東京・肥前のどちらが良いかについて自分自身の最終的な考えをまとめて書く。 7 個人で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に「英作文のコツ」を意識させて書かせておいたライティングノートを用いて，グループで協力しながら「基本文+その理由の1文」をワークシートと掲示用紙に書き上げるよう説明する。 ・ 英文は全員に見やすく掲示することと，大きな声で発表することを確認する。 ・ 全員の考えを聞いた後，今度はグループ編成にかかわらず自分自身の考えをまとめ，再度「英作文のコツ」を意識しながら「基本文+その理由の1文」を書き上げるよう説明する。 ・ 大きな声で確実に伝えるよう指示する。 	<p>ア - 1，イ - 1【ライティングノート，ワークシート，掲示用短冊】</p> <p>イ - 1【掲示用短冊】</p> <p>ア - 1，イ - 1【ワークシート】</p> <p>ア - 1，イ - 1【観察】</p>

終 末	8 自己評価をする。 9 次時の予告を聞く。 10 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none">・ いくつかの観点について授業を振り返らせる。・ 次時の学習内容と予習しておく所を確認する。	ア - 1【自己評価表】
--------	--	---	--------------